

ステップ2 自分と仕事との関係について、改めて考えてみる

自分のライフデザインを明確に

アルバイトや就職活動に忙しい毎日を送っていると、将来の目標や職業生活の設計について改めて振り返ることがだんだん少なくなってくるのでは。

確かに、当面の活動に全力投球することは大切ですが、時々長期的に見た自分の将来展望について確認し、イメージを明確にしておくことも必要です。

自分の設計図にできるだけ近づけるように、就職活動をする上で優先する条件、解決しなければならない課題などを整理し、具体的な活動方針を立てていきましょう。

チェックシート 自分にとっての仕事・働き方へのこだわりは (p 4 7)

チェックシート ワークスタイルの「こだわり度」をチェック (p 4 8)

自分にとって「仕事」とは？

例えば

・仕事を通じて自己実現したいと思うなら・・・

就きたい職業がある、専門家になりたい、自分の店を持ちたい、など、仕事に関するはっきりした目標がある人は、職種や仕事内容を優先。自分が身につけたい職業能力を着実にステップアップさせることができるかという点に注目。

・仕事と個人生活のバランスを大切にしたいと思うなら・・・

仕事とそれ以外の生活時間や趣味などを無理なく両立させたいと考えている人は、仕事内容や職場の環境を優先。自分の望むライフスタイルを実現するための条件をはっきりさせておく。

・仕事は自立して生活を維持していくための手段だと思うなら・・・

仕事に期待するのは何よりも収入と生活の安定だと考えている人は、労働条件を優先。職種や業種にこだわらず、できるだけ広い範囲から仕事を探してみる。

・働くことで社会貢献したいと思うなら・・・

人の役に立てる充実感を大事にしたいという人は、身近なところから社会的ニーズが高い職場を探してみてもいい。

働き方へのこだわりは？

・ぜひとも早く正社員にと思っている・・・

正社員として就職した場合と現在とでは、どのような点が違ってくるのだろう。メリットだと考える理由を整理し、目標実現に向けたエネルギーに。

・アルバイトやパートタイムを続けてもよいと思っているが・・・

正社員と比較した場合のメリット・デメリットについて整理し、自分なりに納得できるかを確認する。

自分の経験・能力をどうやって生かすか

一般的に、アルバイトを長く続けている場合、その経験は、正社員としての職業経歴に比べて、企業から評価されにくいと言われてきました。しかし、アルバイト・パートとして働く人の比率が高まり、業種によっては職場を支える主力となる例も増えている中で、アルバイトの経験を積極的に評価しようという動きも広がってきています。

アルバイトでのさまざまな経験や過去の職場で身につけた技能などを、自分の現在の職業的資産として就職活動に生かせるように、一度きちんと分析し、認識しておきましょう。企業へのアピールポイントとなる意外な財産に気がつくかも。

これまでの職業経験や仕事の技能などを確認するため、「職務経歴書」や「キャリアシート」などと呼ばれる様式を利用して、自分のキャリアの「棚卸し」に取り組んでみては。

チェックシート 自分のキャリアを総点検 (p 4 9)

チェックシート 自分のキャリア・マップを作ってみる (p 5 0)

例えばこんな人は・・・

- ・ 外食産業でのアルバイト経験が長いけれど、セールスポイントになりますか？
企業によって、扱う素材や接客のルールが違ってても、衛生管理や調理器具の操作など共通して使える知識もあるのでは。
- ・ ホテル内のいろいろな職務を経験したことがあります。
清掃や部屋のセッティングなどの基礎訓練を受けていると、同業では有利。
- ・ 配送関係の仕事経験が長いです。
地理や道路事情に詳しい人が歓迎される仕事も多い。

職業適性検査などを受けてみる

やりたい仕事ははっきりしなかったり、自分の得意分野・興味・関心がなかなか絞り込めないような場合は、職業適性検査や職業興味検査を受けてみるのも一つの方法です。

これまで気がつかなかった自分の適性や、漠然としていた志向が明確になり、就職活動の重点とする分野を具体的に考えていくための手がかりが得られるかもしれません。

職業選択をするのはあくまで自分自身ですが、そのためのツールを活用して、いろいろな可能性を多角的に考えてみましょう。

ヤングハローワークなどで利用できるツールとしては、*Career In Sites*、厚生労働省編一般職業適性検査 (G A T B)、V P I 職業興味検査、O H B Y 職業ハンドブックなどがあります。ハローワークの窓口にお問い合わせみてください。

失敗は成功の源

過去に、うまくいかなかった就職活動や、せっかく就職したのに長続きしなかった職場はありませんでしたか。

あまりよい経験でないことは思い出したくないものですが、失敗だったと思えることで、今後の就職活動を成功に導く貴重な情報源となります。できれば一度、冷静かつ客観的に分析してみて、次のステップアップへの手がかりにしましょう。

チェックシート 就職活動の経験を分析 (p 5 1)

例えばこんな経験は？・・・

- ・求人企業に問合せの電話をしたが、ゆっくり話を聞いてもらえなかった
・・・企業の忙しい時間帯（例えば終業間近の夕方など）にぶつかっていた。
- ・電話で約束した面接時間がわからなくなり、遅刻をしてしまった
・・・電話をかける時に、その場でメモを取る準備をしていなかった。
- ・面接の時に、履歴書に書いた細かい内容を忘れてしまっていた
・・・古い履歴書を使っていて、面接前に内容をよく確認していなかった。
- ・面接はよくできていると思うのに、なぜか結果が出ない
・・・控え室で待たされていた時に、気を抜いて友達とメールをしていた。
- ・考えていた仕事内容と異なっていたので、短期間で辞めてしまった
・・・職業名がかっこよかったので、何となくいいイメージを持ってしまった。
- ・希望する時期に休みが取れないので、長続きしなかった
・・・会社の繁忙期や休みのローテーションなどについて、よく確認しなかった。

失敗やトラブルの中には、事前のちょっとした準備と注意で防げるものもあります。やり直しのエネルギーを節約できるように、失敗経験からも大いに学ぼう。



10年先を見ておこう

社会や経済の変化は激しく、将来を予測するのは難しいことです。

ここ数年、「就職氷河期」とよばれる厳しい環境の中で、新卒者の求人倍率が下がり、失業率も高い状態が続いてきました。

一方では、少子高齢化という人口構造の変化の中で、労働力人口（働き手）の数は将来的に減少していくと予測されており、長期的な視点から、中核となる人材を確保していこうという企業の動きも見られます。

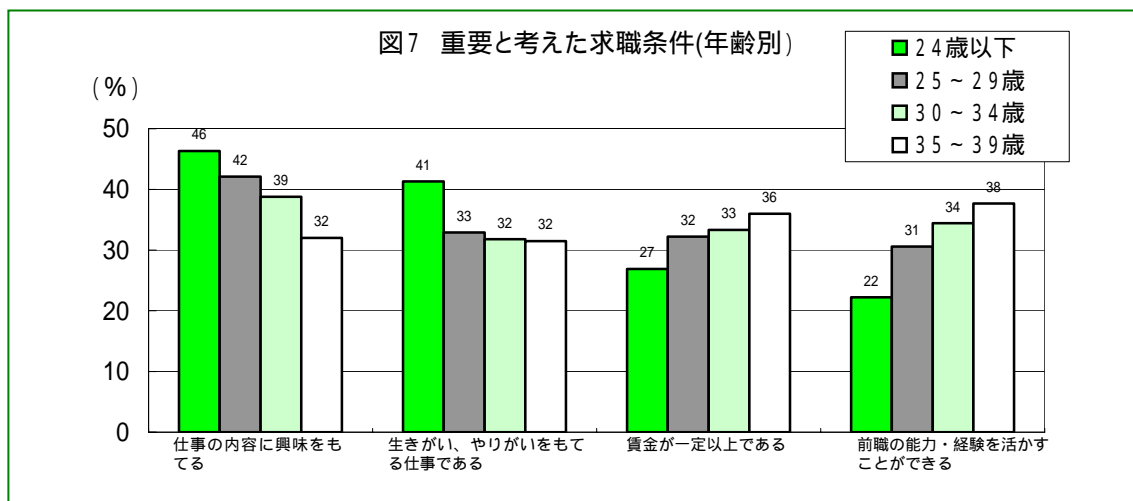
しかし、当面は、新規学卒者の採用に対する企業の慎重な姿勢が続き、就職先が決まらずに卒業する人の数も多く、アルバイトの労働市場も含めて、引き続き競争が厳しいものと考えられます。

また、パートタイムやアルバイト、派遣など、いわゆる正社員以外の雇用形態で働く人たちの割合は、近年上昇を続けており、雇用者全体の約3割を占めるようになってきました。働く側でも、働き方に関する意識が多様化してきていますが、企業の側でも、いろいろな雇用形態を組み合わせ活用しようという動きが広がり、業種や企業によって、パート・アルバイト社員の比率、人事制度における位置付けや活用の考え方、賃金水準や労働条件などが大きく異なってきています。

このように取り巻く環境はいろいろな面で変化を続けているものの、自分自身について確かに言えることは、10年先には10歳年をとっているということ。残念ながら、現在の日本の労働市場では、年をとるほど就職・転職に有利になるという状況ではありません。もちろん、何歳になっても、行動を起こすのにもう遅すぎるといえることはないけれど、今がまだ早すぎるといえることも決してないのです。

今日の自分、明日の自分の延長にある10年先の自分についても、自分なりのイメージを持って、就職活動の方向性を定める目標を持つことが必要です。

チェックシート キャリアデザインをしてみよう（p52）



(注) ハローワークへの求職申し込み時に重要と考えた求職条件(3つまで回答)のうち、年齢による変化が大きい項目

厚生労働省「平成14年求職者総合実態調査」2002年6月